

抽象化されたコンピュータシステムしか扱わない。

しかも、高いレイヤでそれを行い、 比喩 表現で済ませてしまうことが多い。

この授業では、コンピュータの 深いところ まで踏み込む。

伝えるのが難しい事柄を、別のものに例えて何となく理解してもらうためのもの。

共通概念、 常識 などを活用し、少ない言葉でわかりやすく伝えることができる。

一方、あくまでも例えであるため、正確ではないし、誤解もあり得るし、何よりも本質的でない。

比喩表現には、「プログラムが (あたかも) 走っているかのようだ」のように例えていることを明示する「明喩」と、「プログラムが走る」のように例えていることを明示しない「暗喩（メタファー）」がある。

実際にコンピュータ内にあるわけではないが、人間の分かりやすい概念に見せかけて表現されている。

深いところをある程度理解しておけば、抽象化された概念がより理解しやすくなる。

コンピュータシステムは現在のものが最終形ではなく、今後も改良され、発展してゆく。